

香川県における防犯ボランティアの活動内容と課題の検討： ボランティアへの参加動機と援助成果、地域との交流との関連から

大久保 智 生
垣 見 真 博
太 田 一 成
山 地 秀 一
高 地 真 由
森 田 浩 充
久保田 真 功
白 松 賢
金 子 泰 之
岡 田 涼

1. 問題と目的

近年、全国各地で地域住民を主体とした防犯活動が実施されるようになってきている（芝田・羽生・浅川・島田・小俣，2009）。しかし、その一方で活動実施の際の様々な課題から地域での防犯活動が十分に機能していないことも指摘されており、地域での防犯活動の活性化が喫緊の課題となっている。したがって、地域で行われている防犯活動の内容や課題を踏まえた防犯活動の活性化が求められているといえる。

地域で行われている防犯活動の内容としては、警察庁（2017）の「防犯ボランティア団体の活動状況等について」で示されているように、防犯パトロール、子ども保護・誘導、危険箇所点検の順に多いことが示されている。また、地域で行われている防犯活動の課題としては、活動に参加する人が特定の高齢者世代でほぼ固定されている（桐生，2015）ことが挙げられ、警察庁（2017）の調査では、平成28年度における地域防犯活動に参加している人のうち、51.2%が60歳代であることが明らかとなっている。この問題の原因は、少子高齢化社会の進行による高齢者の増加や若い世代の地域のコミュニティ意識の希薄化によって、若い世代が地域防犯活動への参加に対して消極的になっていることにあると考えられている。さらに、活動のマンネリ化や効果が実感できないなどの理由からボランティアによる地域防犯活動が不活化している地域もあり、エビデンスに基づいた防犯活動の活性化のための方策が求められているといえる。したがって、本研究では、香川県の防犯ボランティアの活性化のために、まず、香川県の防犯ボランティアの活動内容とその課題について検討することとする。

地域での防犯活動に関する研究は、これまでに数多く行われてきている（例えば、小林，2002；芝田・羽生・浅川・島田・小俣，2009；島田・雨宮・菊池，2010）。特に、地域防犯活動への参加の規定要因に関する研究では、地域防犯活動に対する態度が地域防犯活動への参加に影響を及ぼすことが明らかとなっており（荒井，2015；高橋，2010）、地域防犯活動への参加を促すために、活動に対するポジティブな態

度を醸成することが課題とされている（荒井，2016；大久保・細川・荒井，2017）。このように地域防犯活動の参加に関する研究では活動に対する態度に焦点が当てられてきたが、行動の原因となる動機に焦点を当て、研究を行うことも可能である。地域での防犯活動を活性化していくためには、多くの人が防犯活動に参加することが重要であるため、本研究では地域での防犯活動の参加動機に焦点を当てる。そして、活動を活性化していくためには自らの活動の成果を実感することが重要であるため、援助成果との関連についても検討を行う。さらに、地域防犯活動によって地域住民との交流やつながりが高まることも予測されるため、防犯ボランティアの地域との交流についても検討を行う。

以上を踏まえ、本研究では、防犯ボランティアの活動内容と活動の課題を明らかにし、ボランティアの参加動機および援助成果、地域との交流との関連について検討することを目的とする。具体的には、まず、年齢、ボランティア歴、活動日数、ボランティアの構成員数、日常的に活動している構成員数などの属性によって参加動機および援助成果、地域との交流が異なるのかについて検討を行う。次に、防犯ボランティアが行っている活動内容によって参加動機および援助成果、地域との交流が異なるのかについて検討を行う。その後、防犯ボランティア活動の課題によって参加動機および援助成果、地域との交流が異なるのかについて検討を行う。最後に、行っている活動内容、活動の課題と参加動機および援助成果、地域との交流の関連について検討する。

2. 方法

2-1. 調査対象者

香川県内の防犯ボランティア団体代表者および地域安全推進委員長361名に対して郵送調査を実施し、265名（男性243名、女性 19名、不明3名）の有効回答を得た。

2-2. 調査内容

(1) 属性

属性については、「性別」、「年齢」、「防犯ボランティア歴」、「月平均活動日数」、「構成員の人数」、「日常的に活動に参加している人数」について尋ねた。

(2) 活動の内容

活動の内容については、行っている活動内容が「防犯広報」、「防犯パトロール」、「危険箇所点検」、「防犯教室・講習会」、「防犯指導・診断」「環境浄化」「子ども保護誘導」「乗り物盗予防」「放置自転車対策」「駐車場・駐輪場警戒」「地域安全マップ作成」「高齢者世帯訪問」「特殊詐欺被害防止活動」「その他（自由記述）」のどれにあてはまるのかを複数回答を許可して尋ねた。

(3) 活動の課題

活動の課題については、行っている防犯活動の課題が「参加者が減少している」、「ボランティアが高齢化している」、「後継者が見つからない」、「活動資金が不足している」、「活動がマンネリ化してきている」、「メリットがない」、「ノウハウやマニュアルがない」、「活動が住民に知られていない」、「広報の仕方がわからない」、「その他（自由記述）」のどれにあてはまるのかを複数回答を許可して尋ねた。

(4) 参加動機

参加動機については、Clary, Ridge, Stukas, Snyder, Copeland, Haugen & Miene (1998) のVolunteer Function Inventoryを翻訳した坂野・矢嶋・中嶋 (2004) のVFI尺度の「感情的安寧」「利他主義」「社会的つながり」「知識の習得」「自尊心の高揚」5因子を用いた。なお、VFI尺度は「職業上の成功」も加え

た6因子であるが、「職業上の成功」については防犯ボランティア活動とは関係しないため、削除した。回答形式は「いいえ」(0点)、「どちらでもない」(1点)、「はい」(2点)の3件法で尋ねた。

(5) 援助成果

援助成果については、「愛他精神の高揚」「人間関係の広がり」「人生への意欲喚起」の3因子からなる妹尾・高木(2003)の援助成果尺度を用いた。回答形式は「全くあてはまらない」(1点)から「非常に当てはまる」(5点)までの5件法で尋ねた。

(6) 地域との交流

地域との交流については、内閣府(2003)の交流・つきあいの広がり尺度を用いた。回答形式は「全く思わない」(1点)から「大いに思う」(5点)までの5件法で尋ねた。

2-3. 倫理的配慮

実施に際しては、個人が特定されることがないなど個人情報保護されることと研究以外の目的では使用されないということを伝えた。また、質問紙への回答は、無記名、自由意思であるということも伝えた。回収に際しては、一人ひとりに封筒を渡し、その中に回答済みの質問紙を入れ、封を閉じてもらい、返送してもらった。これにより、回答内容が他の者に見られることで、個人の不利益とならないように配慮した。

3. 結果と考察

3-1. 防犯ボランティアの属性の検討

防犯ボランティアの属性について検討するため、年齢、ボランティア歴、活動日数、ボランティアの構成員数、日常的に活動している構成員数の平均について算出した。その結果、年齢の平均は70.34歳(SD=9.99)、ボランティア歴の平均は15.48年(SD=10.81)、活動日数の平均は1ヶ月に8.90日(SD=8.62)、ボランティアの構成員数の平均は37.95人(SD=58.23)、日常的に活動している構成員数の平均は19.16人(SD=32.42)であった。以上の結果から、年齢の平均は高いが、ボランティア歴、活動日数、ボランティアの構成員数、日常的に活動している構成員数については標準偏差も大きいため、ボランティア団体によって多様であることが明らかとなった。こうした香川県の防犯ボランティアの現状は、警察庁(2017)の「防犯ボランティア団体の活動状況等について」の全国平均と比較しても特に大きな違いはないことから、全国的な活動状況と同様の傾向にあると考えられる。

年齢、防犯ボランティア歴、活動日数、ボランティア構成員数と日常的に活動している構成員数ごとの参加動機、援助成果、地域との交流について検討するため、それぞれt検定を行った(Table 1, 2, 3, 4, 5)。その結果、年齢では、参加動機の「感情的安寧」($t(247) = 4.183, p < .001$)、「利他主義」($t(242) = 2.196, p < .05$)、「社会的つながり」($t(241) = 2.011, p < .05$)において、年齢が高い者(70歳以上)の得点が高かった。ボランティア歴では、参加動機の「感情的安寧」($t(240) = 3.629, p < .001$)、「利他主義」($t(212.064) = 2.307, p < .05$)、「社会的つながり」($t(234) = 2.475, p < .05$)、援助成果の「愛他的精神の高揚」($t(239) = 2.300, p < .05$)において、ボランティア歴が長い者(11年以上)の得点が高かった。活動日数では、参加動機の「社会的つながり」($t(199.159) = 2.998, p < .01$)、「知識の習得」($t(228) = 2.144, p < .05$)、「自尊心の高揚」($t(225) = 2.378, p < .05$)、援助成果の「愛他的精神の高揚」($t(228) = 3.979, p < .001$)、「人間関係の広がり」($t(228) = 3.707, p < .001$)、「人生への意欲喚起」($t(202.110) = 4.525, p < .001$)、「地域との交流」($t(233) = 3.875, p < .001$)において、活動日数が多い者(月に5回以上)の得点が高かった。ボラ

ンティア構成員数では、援助成果の「人間関係の広がり」(t(238) = 2.710, p<.01)、「人生への意欲喚起」(t(240) = 2.252, p<.05)において、ボランティア構成員数が多い者(16人以上)の得点が高かった。日常的に活動している構成員数では、援助成果の「人間関係の広がり」(t(223) = 2.605, p<.05)、「人生への意欲喚起」(t(224) = 2.834, p<.01)、「地域との交流」(t(229) = 3.211, p<.001)において、日常的に活動している構成員数が多い者(10人以上)の得点が高かった。以上の結果から、防犯ボランティアの属性によって、参加動機、援助成果、地域との交流が異なることが明らかとなった。年齢、ボランティア歴や活動日数によって参加動機が異なることから防犯ボランティア団体の現状も踏まえて、防犯ボランティアの活性化の方策を考えていく必要があるといえる。

Table 1 年齢ごとの参加動機、援助成果、地域との交流の平均とt検定結果

	69歳以下	70歳以上	t値
感情的安寧	3.990 (2.100)	5.169 (2.239)	4.183***
利他主義	6.495 (2.062)	7.063 (1.936)	2.196*
社会的つながり	6.730 (2.313)	7.301 (2.076)	2.011*
知識の習得	7.245 (2.323)	7.777 (2.010)	1.929
自尊心の高揚	6.347 (2.385)	6.870 (2.092)	1.824
愛他的精神の高揚	14.952 (3.034)	15.241 (2.375)	0.843
人間関係の広がり	14.892 (3.034)	15.076 (2.413)	0.529
人生への意欲喚起	10.340 (2.345)	10.856 (2.068)	1.835
地域との交流	19.922 (3.395)	20.065 (3.322)	0.335

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

Table 2 防犯ボランティア歴ごとの参加動機、援助成果、地域との交流の平均とt検定結果

	10年以下	11年以上	t値
感情的安寧	4.144 (2.252)	5.176 (2.161)	3.629***
利他主義	6.505 (2.133)	7.102 (1.796)	2.307*
社会的つながり	6.676 (2.291)	7.383 (2.093)	2.475*
知識の習得	7.288 (2.180)	7.788 (2.042)	1.842
自尊心の高揚	6.427 (2.285)	6.870 (2.132)	1.555
愛他的精神の高揚	14.709 (2.731)	15.504 (2.621)	2.300*
人間関係の広がり	14.773 (2.618)	15.254 (2.771)	1.374
人生への意欲喚起	10.441 (2.177)	10.832 (2.257)	1.363
地域との交流	19.752 (3.356)	20.265 (3.371)	1.197

*p<.05 ***p<.001

Table 3 活動日数ごとの参加動機、援助成果、地域との交流の平均とt検定結果

	月に4回以下	月に5回以上	t値
感情的安寧	4.600 (2.343)	4.975 (2.085)	1.281
利他主義	6.698 (2.139)	7.076 (1.817)	1.430
社会的つながり	6.697 (2.448)	7.565 (1.822)	2.998**
知識の習得	7.400 (2.231)	7.983 (1.892)	2.144*
自尊心の高揚	6.478 (2.366)	7.147 (1.852)	2.378*
愛他的精神の高揚	14.482 (2.973)	15.858 (2.250)	3.979***
人間関係の広がり	14.440 (3.017)	15.719 (2.184)	3.707***
人生への意欲喚起	10.018 (2.408)	11.300 (1.818)	4.525***
地域との交流	19.372 (3.531)	20.975 (2.795)	3.875***

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

Table 4 ボランティア構成員数ごとの参加動機、援助成果、地域との交流の平均とt検定結果

	15人以下	16人以上	t値
感情的安寧	4.858 (2.488)	4.546 (2.004)	1.076
利他主義	6.897 (2.131)	6.882 (1.823)	0.058
社会的つながり	6.908 (2.477)	7.362 (1.771)	1.614
知識の習得	7.402 (2.291)	7.875 (1.794)	1.787
自尊心の高揚	6.504 (2.556)	6.932 (1.733)	1.511
愛他的精神の高揚	15.008 (2.794)	15.342 (2.555)	0.966
人間関係の広がり	14.583 (2.924)	15.508 (2.330)	2.710**
人生への意欲喚起	10.350 (2.396)	10.984 (1.962)	2.252*
地域との交流	19.688 (3.675)	20.463 (2.823)	1.861

*p<.05 **p<.01

Table 5 日常的に活動している構成員数ごとの参加動機、援助成果、地域との交流の平均とt検定結果

	9人以下	10人以上	t値
感情的安寧	4.785 (2.388)	4.740 (2.057)	0.149
利他主義	6.803 (2.077)	7.019 (1.831)	0.813
社会的つながり	6.941 (2.278)	7.402 (2.050)	1.569
知識の習得	7.451 (2.163)	7.876 (1.849)	1.579
自尊心の高揚	6.619 (2.435)	6.962 (1.704)	1.205
愛他的精神の高揚	14.917 (2.676)	15.539 (2.577)	1.766
人間関係の広がり	14.700 (2.773)	15.619 (2.478)	2.605*
人生への意欲喚起	10.314 (2.987)	11.152 (2.120)	2.834**
地域との交流	19.544 (3.557)	20.906 (2.748)	3.211**

*p<.05 **p<.01

3-2. 防犯ボランティアの活動内容の検討

防犯ボランティアが行っている活動内容について検討するため、各活動内容の割合について算出した (Table 6)。その結果、防犯ボランティアが行っている活動内容として、「防犯パトロール」(80.8%)、「子ども保護誘導」(49.4%)、「危険箇所点検」(39.6%)「防犯広報」(27.9%)の順に多かった。以上の結果から、防犯パトロールや子ども保護誘導のような特に子どもの安全を守るための活動が多く行われていることが明らかとなった。これは、子どもが被害者となる犯罪や事件が相次いで報道されることなどが関係していると考えられる。

防犯ボランティア活動の内容ごとの参加動機、援助成果、地域との交流について検討するため、それぞれt検定を行った。その結果、「子ども保護誘導」では、参加動機の「感情的安寧」($t(248) = 2.657, p < .01$)、「利他主義」($t(243) = 2.711, p < .01$)、「社会的つながり」($t(242) = 2.056, p < .05$)、「自尊心の高揚」($t(246) = 2.550, p < .05$)、援助成果の「愛他的精神の高揚」($t(247) = 3.144, p < .01$)、「人間関係の広がり」($t(246) = 3.012, p < .01$)、「人生への意欲喚起」($t(248) = 3.129, p < .01$)、地域との交流 ($t(255) = 2.491, p < .05$)において、子ども保護誘導を行っている者の得点が高かった。「危険箇所点検」では、参加動機の「知識の習得」($t(249) = 2.048, p < .05$)において、危険箇所点検を行っている者の得点が高かった。「環境浄化」では、援助成果の「愛他的精神の高揚」($t(247) = 2.021, p < .05$)において、環境浄化を行っている者の得点が高かった。「高齢者世帯訪問」では、参加動機の「感情的安寧」($t(248) = 2.266, p < .05$)、「利他主義」($t(243) = 2.208, p < .05$)、援助成果の「愛他的精神の高揚」($t(247) = 3.489, p < .01$)、「人間関係の広がり」($t(246) = 2.219, p < .01$)、「人生への意欲喚起」($t(248) = 3.737, p < .001$)において、高齢者世帯訪問を行っている者の得点が高かった。「防犯教室・講習会」では、参加動機の「社会的つながり」($t(242) = 3.065, p < .01$)、「知識の習得」($t(249) = 2.959, p < .01$)、「自尊心の高揚」($t(246) = 2.837, p < .01$)、援助成果の「人間関係の広がり」($t(246) = 2.032, p < .05$)、地域との交流 ($t(255) = 2.594, p < .05$)において、防犯教室・講習会を行っている者の得点が高かった。「地域安全マップ作成」では、援助成果の「愛他的精神の高揚」($t(247) = 2.577, p < .05$)、地域との交流 ($t(255) = 2.562, p < .05$)において、地域安全マップ作成を行っている者の得点が高かった。「特殊詐欺被害防止活動」では、援助成果の「愛他的精神の高揚」($t(247) = 2.448,$

Table 6 防犯ボランティアの活動内容の割合

活動の内容	人数 (割合)
防犯パトロール	214 (80.8)
子ども保護誘導	131 (49.4)
危険箇所点検	105 (39.6)
防犯広報	74 (27.9)
環境浄化	56 (21.1)
高齢者世帯訪問	53 (20.0)
防犯教室・講習会	47 (17.7)
地域安全マップ作成	43 (16.2)
特殊詐欺被害防止活動	38 (14.3)
放置自転車対策	25 (9.4)
防犯指導・診断	15 (5.7)
駐車場・駐輪場警戒	13 (4.9)
乗り物盗予防	11 (4.2)
その他 (保護司)	2 (0.8)

$p < .05$ ）、「人間関係の広がり」($t(246) = 2.931, p < .01$)、「人生への意欲喚起」($t(248) = 2.210, p < .05$)、地域との交流 ($t(255) = 2.098, p < .05$) において、特殊詐欺被害防止活動を行っている者の得点が高かった。「放置自転車対策」では、参加動機の「感情的安寧」($t(248) = 3.223, p < .01$)、「知識の習得」($t(249) = 2.886, p < .01$)、「自尊心の高揚」($t(246) = 2.975, p < .01$)、援助成果の「愛他的精神の高揚」($t(247) = 2.732, p < .01$) において、放置自転車対策を行っている者の得点が高かった。「防犯指導・診断」では、参加動機の「感情的安寧」($t(248) = 3.127, p < .01$)、「利他主義」($t(243) = 2.333, p < .05$)、援助成果の「人生への意欲喚起」($t(248) = 2.137, p < .05$)、地域との交流 ($t(255) = 2.062, p < .05$) において、防犯指導・診断を行っている者の得点が高かった。「駐車場・駐輪場警戒」では、参加動機の「自尊心の高揚」($t(246) = 2.680, p < .01$)、援助成果の「人間関係の広がり」($t(246) = 2.577, p < .05$)、「人生への意欲喚起」($t(248) = 2.482, p < .05$)、地域との交流 ($t(255) = 2.222, p < .05$) において、駐車場・駐輪場警戒を行っている者の得点が高かった。「乗り物盗予防」では、参加動機の「利他主義」($t(243) = 2.849, p < .01$)、地域との交流 ($t(255) = 2.232, p < .05$) において、乗り物盗予防を行っている者の得点が高かった。以上の結果から、防犯ボランティアの活動内容によって、参加動機や援助成果、地域との交流が異なることが明らかとなった。活動の内容によって、参加動機や援助成果や地域との交流が異なることから、それぞれの活動内容の特徴を踏まえて、今後の活性化の方策を考えていく必要があるといえる。

3-3. 防犯ボランティア活動の課題の検討

防犯ボランティア活動の課題について検討するため、各課題の割合について算出した (Table 7)。その結果、防犯ボランティア活動の課題として、「ボランティアが高齢化している」(81.5%)、「後継者が見つからない」(51.7%)、「参加者が減少している」(47.2%)、「活動がマンネリ化してきている」(40.0%)の順に多かった。以上の結果から、桐生 (2015) の指摘と同様にボランティアの高齢化が切実な問題となっており、後継者不足や参加者の減少、マンネリ化などの問題が生じてきていることが明らかとなった。今後どのように若い世代の防犯ボランティアを育成していくのか、どのように魅力ある活動としていけるかが重要になるといえる。

防犯ボランティア活動の課題ごとの参加動機、援助成果、地域との交流について検討するため、それぞれt検定を行った。その結果、「ボランティアが高齢化している」では、参加動機の「感情的安寧」($t(248) = 3.083, p < .01$)、「社会的なつながり」($t(242) = 2.636, p < .01$)、「知識の習得」($t(249) = 3.513, p < .01$)、

Table 7 防犯ボランティアの活動の課題の割合

活動の課題	人数 (割合)
ボランティアが高齢化している	216 (81.5)
後継者が見つからない	137 (51.7)
参加者が減少している	125 (47.2)
活動がマンネリ化してきている	106 (40.0)
活動資金が不足している	67 (25.3)
活動が住民に知られていない	52 (19.6)
ノウハウやマニュアルがない	33 (12.5)
メリットがない	10 (3.8)
広報の仕方が分からない	8 (3.0)
その他 (時間がとれない、不公平、自主性の欠如、学校との連携)	4 (1.5)

「自尊心の高揚」($t(246) = 4.301, p < .001$)、地域との交流 ($t(255) = 2.736, p < .01$) において、ボランティアの高齢化を課題と考えている者の得点が高かった。「メリットがない」では、援助成果の「愛他的精神の高揚」($t(247) = 2.731, p < .01$) において、メリットの欠如を課題と考えていない者の得点が高かった。以上の結果から、活動の課題によって、参加動機や援助成果、地域との交流が異なることが明らかとなった。課題によって、参加動機、援助成果、地域との交流が異なることから、どのような課題があるのかを踏まえて、団体の活性化の方策を考えていく必要があるといえる。特に、高齢化の課題を抱えている防犯ボランティアは参加動機が高かったが、現在は良くても、将来的に不活化していくことは容易に予想できる。したがって、将来を見据え、若い世代が地域防犯活動に関心をもてるような方策を考える必要があるといえる。

3-4. 防犯ボランティア活動の内容、活動の課題と参加動機および援助成果との関連の検討

行っている活動内容数、活動の課題数と参加動機および援助成果、地域との交流との関連について検討するため、重回帰分析を行った (Table 8)。その結果、援助成果の「愛他的精神の高揚」では、活動内容数 ($\beta = .192, p < .001$)、参加動機の「知識の習得」($\beta = .252, p < .01$)、「自尊心の高揚」($\beta = .191, p < .05$) から有意な正の影響が、課題数 ($\beta = -.152, p < .01$) から有意な負の影響が認められた。援助成果の「人間関係の広がり」では、活動内容数 ($\beta = .129, p < .05$)、参加動機の「社会的つながり」($\beta = .270, p < .001$)、「知識の習得」($\beta = .326, p < .001$) から有意な正の影響が、課題数 ($\beta = -.145, p < .05$) から有意な負の影響が認められた。援助成果の「人生への意欲喚起」では、活動内容数 ($\beta = .166, p < .01$)、参加動機の「感情的安寧」($\beta = .144, p < .05$)、「自尊心の高揚」($\beta = .271, p < .01$) から有意な正の影響が、課題数 ($\beta = -.223, p < .001$) から有意な負の影響が認められた。地域との交流では、活動内容数 ($\beta = .130, p < .05$)、参加動機の「社会的つながり」($\beta = .220, p < .01$)、「知識の習得」($\beta = .423, p < .001$) から有意な正の影響が認められた。

以上の結果から、様々な内容の活動を行っている防犯ボランティアは援助成果を感じて地域と交流しており、逆に課題を数多く抱えていると援助成果を感じにくいことが明らかとなった。さらに、利他的な動機以外の参加動機は援助成果に影響することが明らかとなった。したがって、多様な内容の活動を行い、課題を解消していくことが援助成果を感じるためには重要であるといえる。そして、利他的動機以外のどのような参加動機であっても援助成果を感じられることから、どのような動機で行うかよりも活動を行うことが重要であり、そのための仕掛けが必要であるといえる。つまり、地域住民が防犯活動に参加しやすい

Table 8 行っている活動内容数、活動の課題数と参加動機および援助成果、交流・つきあいの広がりとの関連

	愛他的精神の高揚	人間関係の広がり	人生への意欲喚起	地域との交流
活動内容数	.192***	.129*	.166**	.130*
課題数	-.152**	-.145*	-.223***	-.017
感情的安寧	.035	-.002	.144*	.048
利他主義	.125	-.071	.069	-.076
社会的つながり	.111	.270***	.059	.220**
知識の習得	.252**	.326***	.130	.423***
自尊心の高揚	.191*	.131	.271**	.008
重相関係数	.653***	.620***	.619***	.599***

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

く、成果を実感しやすくなるようなしかけが重要になると考えられる。

4. まとめと今後の課題

本研究では、防犯ボランティアの活動内容と活動の課題を明らかにし、ボランティアの参加動機および援助成果、地域との交流との関連について検討することを目的とした。調査の結果、防犯ボランティアの属性、防犯ボランティアの活動内容、活動の課題によって、参加動機や援助成果、地域との交流が異なることが明らかとなった。また、様々な内容の活動を行っている防犯ボランティアは援助成果を得ており、逆に課題を数多く抱えていると援助成果を感じにくいことが明らかとなり、利他的な動機以外の参加動機は援助成果に影響することが明らかとなった。

防犯ボランティアの属性、防犯ボランティアの活動内容、活動の課題によって、参加動機や援助成果、地域との交流が異なることが明らかとなった。こうした結果から、防犯ボランティア団体の現状や活動内容、活動の課題も踏まえて、防犯ボランティアの活性化の方策を考えていく必要性が示唆された。また、防犯ボランティアが特定の高齢者世代でほぼ固定されているという桐生（2015）の指摘と同様に、香川県の防犯ボランティアの平均年齢は70歳を超えており、高齢化に伴う様々な課題があることが示唆された。したがって、高齢者世代がボランティアとして活動するだけでなく、若い世代もボランティアとして活動できるような方策を考え、さらに、若い世代が現時点で防犯活動に参加しなくても、防犯活動に関心を持ち、将来的にボランティアに参加できるような方策も考えていく必要があるといえる。

様々な内容の活動を行っている防犯ボランティアは援助成果を得ており、逆に課題を数多く抱えていると援助成果を感じにくいことが明らかとなり、利他的な動機以外の参加動機は援助成果に影響することが明らかとなった。したがって、様々な内容の活動を行うことはマンネリ化を防ぐことにつながることも、活動内容も一つだけにとどまらず、様々な内容を組み合わせた活動を行っていく必要があるといえる。また、活動の課題の解消によって援助成果を実感しやすくなることを勘案すると、高齢化に伴う様々な課題をどのようにとらえていくのが重要になるといえる。前述のように、単純に若い世代のボランティアを増やすだけではなく、若い世代が防犯活動に関心を持ち、仕事をリタイヤする時期くらいにボランティアとして防犯活動に参加できるように、防犯ボランティアの活動の意義を知ってもらうことなども今後の方策の一つとして考えられる。さらに、利他的な動機以外の参加動機は援助成果に影響することからも、どのような動機であっても活動に参加してもらい、成果を実感してもらうことが必要であるといえる。そのためには、自然に防犯活動に参加できるような仕掛けなどを考えていく必要がある。

今後の課題としては、3点挙げられる。1点目は対象の問題である。今回、地域防犯活動の中心となる防犯ボランティア団体の代表と地域安全推進委員会会長を対象としたが、参加者の減少という課題を踏まえるとボランティア団体の構成員が活動をどのようにとらえているのかについても検討する必要があるといえる。2点目は活動の継続の問題である。今回、防犯ボランティア活動の活性化のために参加動機について検討したが、仮に参加人数が増え、魅力ある活動になっても、活動を行っていく中で成果が実感できないと時間とともにマンネリ化していくことが予想される。そのためにも継続のための仕掛けが重要であり、参加だけでなく、継続の動機についても検討していく必要があるといえる（大久保・黒沢，2003）そして、地域防犯活動は地域住民組織によるボランティア行為としての要素が強いことが指摘されている（Lavrakas & Herz, 1982）ことから、防犯活動を継続して行っていくためには、その成果を実感できる試みなども必要になるといえる（大久保・細川・荒井，2017）。3点目は地域との連携の問題である。地域の防犯活動は、防犯ボランティアが行えばよいという問題ではない。企業や店舗も地域での防犯活動

に参加することが求められているといえ、特に店舗は子どもの見守りから防犯ボランティアの集合場所などで店舗を利用することまで、様々な連携のあり方が考えられる（白松・久保田，2016；大久保・有吉・千葉・垣見・山地・山口・森田，2017）。今後は、どのように地域ぐるみで防犯活動を行っていくのか、その担い手についても検討する必要があるといえる。

付記

本研究は日工組社会安全研究財団2017年度の一般研究助成を受けて実施したものである。

引用文献

- 荒井崇史（2015）. 防犯行動促進要因の検討：計画行動理論の観点からの検討 犯罪心理学研究第53巻特別号, 146-147.
- 荒井崇史（2016）. 地域防犯活動への参加意図を規定する要因の検討 犯罪心理学研究第54巻特別号, 140-141.
- Clary, E. G., Ridge, R. D., Stukas, A. A., Snyder, M., Copeland, J., Haugen, J. & Miene, P. (1998) Understanding and assessing the motivations of volunteers: A functional approach. *Journal of Personality and Social Psychology*, 74, 1516-1530.
- 警察庁（2017）. 防犯ボランティア団体の活動状況等について
<https://www.npa.go.jp/safetylife/seianki55/news/doc/20170331.pdf>
- 桐生正幸（2015）. 地域防犯活動における高齢者ボランティアの意識調査 東洋大学21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチセンター研究年報, 12, 13-20.
- 小林寿一（2002）. 地域の非行防止活動の活性化について：地域レベルのプロセスと効果の検討 犯罪社会学研究, 27, 74-86.
- 小林寿一・鈴木護（1997）. 地域安全活動に対する高齢者の参加を促進する要因の分析 科学警察研究所報告防犯少年編, 38, 69-82.
- Lavrakas, P. J. & Herz, E. J. (1982). Citizen participation in neighborhood crime prevention. *Criminology*, 20, 479-498.
- 内閣府（2003）. 平成14年度 ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて https://www.npo-homepage.go.jp/uploads/report_h14_sc_ref2.pdf
- 大久保智生・有吉徳洋・千葉敦雄・垣見真博・山地秀一・山口真由・森田浩充（2017）. 店舗における地域と連携した防犯対策の評価：安全・安心まちづくり推進店舗の認定を通して 香川大学教育学部研究報告, 148, 1-8.
- 大久保智生・細川愛・荒井崇史（2017）. 高齢者における地域防犯活動への参加および自身の防犯行動とその規定要因：要因連関モデルからの検討 香川大学生涯学習教育研究センター研究報告, 22, 55-67.
- 大久保智生・黒沢香（2003）. 関係論的アプローチによる動機づけ概念の再考 心理学評論, 46, 12-23.
- 坂野純子・矢嶋裕樹・中嶋和夫（2004）. 地域住民におけるボランティア活動への参加動機と満足感の関連性 東京保健科学学会誌, 7, 17-24.
- 妹尾香織・高木修（2017）. 援助行動経験が援助者自身に与える効果：地域で活動するボランティアに見られる援助成果 社会心理学研究, 18, 106-118.
- 芝田征司・羽生和紀・浅川達人・島田貴仁・小俣謙二（2009）. 地域防犯に対する住民意識と防犯活動の参加態度との関係についての予備的分析 人間環境学会誌, 12（2）, 50.
- 島田貴仁・雨宮護・菊池誠治（2010）. 近隣での防犯対策が市民の犯罪の知覚に与える影響：青色防犯パトロールと犯罪発生マップを例にして 犯罪社会学研究, 35, 132-148.
- 白松賢・久保田真功（2016）. 「学校・家庭・地域の社会的紐帯」による万引き防止の可能性：試行モデル事業による課題探求 愛媛大学教育学部紀要, 63, 31-38.
- 高橋尚也（2010）. 地域防犯活動に対する市民参加を規定する要因：東京都江戸川区における二つの調査結果をもとに 社会心理学研究, 26, 97-108.